

「いと高き方は、恩を知らない者にも悪人にも、情け深い」

(ルカによる福音書 6 : 27-38)

「敵を愛しなさい」という主イエスの示された愛とは、神の愛であり、すべての人々を救おうとする神の意志そのものです。憎らしい人がいるとしても、その人をも神は救いたい、愛しておられます。その神の愛を肯定し、たとえ憎しみを抱く相手であっても、その相手のことを、神に愛されている存在として認めることが、わたしたちに求められています。

「敵を愛せ」と聞いた弟子たちはきっと、「そんなこと出来っこない」と思ったことでしょう。彼らがそのように生きられるようになるのは、主イエスを裏切っしまい、しかし、ご復活の主イエスに出会い、赦されてからです。敵を愛する愛とは、わたしたち自身の内から出てくるものではありません。主イエスの赦しに与り、その愛をいただくことで、わたしたちは敵をも愛することにチャレンジする力が与えられます。ですから、愛するのはわたしたちであるようで、それは神からのものなのです。

人は愛されたいと望んでいます。しかし、それを得るために、裏切り、欺き合い、いつの間にか愛から離れてしまいます。愛を求めて歩んでいるつもりが、気がついてみれば愛から離れている。これが人間の罪です。主イエスは十字架の上で、「父よ、彼らをお赦してください。自分のしていることを知らないのです。」と神に願い、ご自分を十字架につけた人間のために祈られました。わたしたちは、主イエスを十字架に付けた人々と同じように、知らぬ間に愛から離れ、神に背く存在です。それゆえ、わたしたちは主イエスを十字架につけた人々と同じ「敵」であり、罪人です。しかし、主イエスはその敵を愛し抜いてくださるお方です。わたしたちは、わたしたち自身が罪人であり、主イエスの敵であることを知るなら、同時にその敵のために祈ってくださる主イエスの愛を知り、それどころか赦されて家族とされる、愛と赦しの命をいただきます。「いと高き方は、恩を知らない者にも悪人にも、情け深い」のです。